

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）
2018年度研究【経過・成果】報告書

| | | | | | | | | |
|------------------------------------|--|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|
| 研究代表者 | 所属部局・職 | | 氏名 | | | | | |
| | 異文化コミュニケーション学部・教授 | | 細井尚子 印 | | | | | |
| 研究課題 | 「東アジア文化圏」研究基盤の構築—娯楽市場における「大衆」「演劇」「大衆演劇」から— | | | | | | | |
| 研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2019年3月現在 | 所属研究機関・部局・職 | | 氏名 | | | | | |
| | 立教大・学異文化コミュニケーション学部・教授 | | 細井尚子 | | | | | |
| | 明治大学・文学部・兼任講師 | | 中野正昭 | | | | | |
| | 神戸学院大学・グローバルコミュニケーション学部・准教授 | | 森平崇文 | | | | | |
| | 早稲田大学演劇博物館・講師（任期付） | | 宮信明 | | | | | |
| 研究期間 | 2018年度～2020年度 | | | | | | | |
| 研究経費※ (上段：支出金額) | 2018年度 | | 2019年度 | | 2020年度 | | 総計 | |
| | 1,275,000 | 円 | 0,000,000 | 円 | 0,000,000 | 円 | 1,275,000 | 円 |
| (下段：採択金額) | 1,275,000 | | 1,810,000 | | 2,385,000 | | 5,470,000 | |

※1円単位で記入

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究は、「東アジア文化圏」研究基盤の構築を目的とする。中華文化の影響を自己の基層に内包する「東アジア文化圏」は地理的には非西洋だが、19世紀に「西洋」と向かい合い、20世紀には「近代日本」の空間に覆われた時間を共有した。「西洋」及び「近代日本」という翻案された「西洋」との圧力的接触、咀嚼、自己化という過程を経てどのように自己の「近代」を実体化したのか、また20世紀後半以降、娯楽市場で現出したグローバル化現象によって、読み直される「近代」の表象について、東アジア間に存在する「大衆」「大衆演劇」「大衆娯楽」概念の相違と共有を探りつつ、社会変容を随時反映して時間的蓄積よりも更新を本質とする「大衆演劇」「大衆娯楽」から明らかにする。それにより、従来の「東アジア文化圏」研究が「西洋」出自の分析・理論を借用する傾向を有するために見えなかった当該文化圏の独自性に立脚した分析・理論を模索し、「東アジア文化圏」研究基盤を構築を目指す。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[東アジア文化圏] [近代] [大衆娯楽]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究は、3年間の研究活動期間で、東アジア間の「大衆」「大衆演劇」「大衆娯楽」概念の相違と共有を探りつつ、前身研究で抽出した様々な要素について比較研究に適するよう、関係・関係性に留意して妥当な比較対象たるべくマッピングすることから始め、以下の1) 2) 3)の研究活動を展開し、最終年度には1) 2) 3)から「東アジア文化圏」の娯楽市場における「近代」の表象を明らかにする計画を立てている。:

- 1) 「近代日本」空間に覆われる時間前・空間下時代の芸態を取り巻く環境と芸態の関係性
→ 見せるもの・見せ方の変容と諸要素の関係性
- 2) 「近代日本」空間から離れ、1980年代前半までの芸態を取り巻く環境と芸態の関係性
→ 媒体の多様化と「西洋」「非西洋」の枠組の変容の関係
- 3) 「東アジア文化圏」の枠組としての「非西洋」の機能
→ グローバル化現象によって読み直される実体化された自己の「近代」

初年度である2018年度は、研究代表者、研究分担者以外に、研究協力者として台湾・中国・韓国・日本の研究者と協同し、また、台湾・台北芸術大学及び東亜州大衆戯劇研究会と連携して、分担別の個人研究としての資料収集・個人参加の学会発表以外に、メンバーの共同活動として研究会5回、国際シンポジウム(共催)1回、レクチャー&デモンストレーション&ワークショップ2回(共催)、国際演劇講座1回(共催)、研究セミナー1回(共催)を開催した。

<国際シンポジウム>

2018/9/29-30 於台北芸術大学

「2018 東亜大衆戯劇国際學術研討會 流行的生成與變動」

台湾・台北芸術大学・戯劇学院、伝統音楽学院主催、SFR・立教大学アジア地域研究所共催
日本5名・台湾7名・中国1名・韓国2名の15名の研究発表。

・上記計画3項目

- 1) 李孟勳(台湾・中央研究院ポスドク研究員)「日治時期沖繩人川平朝申家族在台湾之演劇活動」(「日本統治時期沖繩出身川平朝申一家の台湾における演劇活動」)等9本
- 2) 海震(中国・中国戯曲学院教授)「華語戯劇即興表演及演唱的伝統、断裂及生機: 従大衆戯劇角度的觀察」(「中国語演劇の即興演技及び演唱の伝統、断裂及び活力: 大衆演劇の角度からの觀察」)等10本
- 3) 宮信明(早稲田大学演劇博物館講師)「従『日常』到『非日常』- 寄席的『近代化』與技芸之變化」(「『日常』から『非日常』へ- 寄席の『近代化』と芸の変容」)等3本

* 1つの研究発表が3項目の2つまたは3つに跨るものもある。

<レクチャー&デモンストレーション&ワークショップ>

① 9/29-30 於台北芸術大学

「變動中的沖繩藝能: 従士族的武術到大衆的舞踊 講座與工作坊」

台湾・台北芸術大学・戯劇学院、伝統音楽学院主催、SFR・立教大学アジア地域研究所共催
琉球王府の外交之具であった舞踊は、従来外国使節の応接のため、上級士族が学んで披露するもので、專業職としての舞踊家は存在しなかった。琉球処分による王府解体後、この舞踊を下級士族が習い、誕生した娯楽市場において上演、糊口をしのいだ。琉球王府の士族は厳しい身分制を維持していたが、なぜ上級士族が下級士族に舞踊を伝授したのかは空白のままになっていた。琉球王府の武術である本部御殿手は段位が一定以上になると武術の型を舞踊化したものを学ぶ。本部御殿手から琉球舞踊の現二大流派の創始者が共に舞踊を学んでおり、本部御殿手・二大流派の舞踊家2名、3名で同じ曲を舞い、比較検証を行った。

これは初の試みで、王府の外交の具から娯楽市場のソフトへの変容の考察において大きな収穫となった。

・上記計画3項目…1) 3)

研究【経過・成果】の概要 つづき

② 12/7 於立教大学

「武術と舞踊—琉球王朝と大衆娯楽市場を繋ぐもの—」

SFR・立教大学アジア地域研究所共催

上記①の試みを日本でも共有するため実施。二大流派の舞踊家は経費的制約により招聘できなかったため、三様比較は①の映像を用い、デモンストレーション&ワークショップは本部御殿手で実施した。

・上記計画 3 項目…1) 3)

< 研究セミナー >

2019/1/26 於立教大学

アジア地域研究所設立 20 周年研究セミナー「東アジア大衆演劇の『興行』（1）台湾・韓国」

SFR・立教大学アジア地域研究所共催

台湾から 3 名・韓国から 1 名を招聘、研究者対象のセミナーとして、研究報告の後に活発な質疑応答、意見交換が行われた。興行を巡る概念・環境等の日本・台湾・韓国間の相違も明確になり、次年度以降この点に留意し、まず「興行」概念の統一を図ることになった。

・上記計画 3 項目…1) 2)

< 国際演劇講座 >

2019/2/17 於台北芸術大学

「日本近代娯楽—音楽、音楽性、音楽劇」

台湾・台北芸術大学戯劇学院主催、SFR・立教大学アジア地域研究所共催

中野正昭「以劇団四季為例看日本娯楽市場與音楽劇」（「劇団四季を例に日本娯楽市場とミュージカル」）

細井尚子「圍繞著台詞看日本戯劇的現代」（「台詞からみる日本演劇の近代」）

1970 年代以降、東アジアの娯楽市場におけるミュージカル人気は安定的であり、観客動員数は増加傾向にある。一方で東アジアで近代以前から人々に親しまれてきた芸態は、いわゆる「歌入り芝居」で、ミュージカルの要素は皆無ではないが、ミュージカルは欧米伝来の芸態と認識され、固有の伝統的な芸態との比較検討は行われてこなかった。日本のミュージカルを牽引し、従来なかったチケット販売組織、観客組織を生み出した劇団四季の講座は劇団四季のみならず、日本のミュージカルを巡る状況も、また細井の講座は台詞術の音楽性に注目し、「西洋」から移植した新劇が娯楽市場に着地できるまでの過程について紹介しつつ、東アジアの近代以前の芸態は音楽性のある台詞術を共有することを指摘した。活発な質疑応答、意見交換により、近代以前・以降の「歌入り芝居」という芸態比較も行った。

・上記計画 3 項目…1) 2) 3)

初年度は本プロジェクトの前身研究の成果を基に、1) 2) 3) 各項目で各地域・各事例をサンプルとした研究成果を蓄積したが、3) に関しては日本以外の地域の研究はまだやや薄い。各事例を比較検討する共通の軸として、初年度は社会と芸態の接点である「興行」を設定した。討論の中で、地域間・研究者間で「興行」概念に相違があることが明確になったため、次年度はまず「興行」概念の共有化を図り、蓄積した事例研究成果の比較検討に取り組むとともに、3) 関連資料収集・分析・研究を比較的重視して研究活動を展開したい。

※ この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

細井尚子, 「娛樂市場中之近代化與全球化——著眼於『大眾戲劇』」, 「想像與真實: 文化的隱喻、重塑及詮釋 2018 NTU 劇場國際學術研討會論文集」, 台湾大学, 2018/10, pp. 310-334

宮信明, 三遊亭円朝と民衆世界, 『民衆史研究』, 第 96 号, 2018/12, pp. 78-85

宮信明, 從「日常」到「非日常」—寄席的「近代化」與技藝之變化, 『戲劇學刊』, 第 29 期, 台北芸術大学, 2019/3, pp. 37-59 (査読有)

細井尚子, 日本特有之興行制度—松竹所創造的「近代化」, 『戲劇學刊』, 第 29 期, 台北芸術大学, 2019/3, pp. 61-86 (査読有)

森平崇文, 女團偶像商業模式的傳播—從「秋葉原」到「上海」, 『戲劇學刊』, 第 29 期, 台北芸術大学, 2019/3, pp. 87-99 (査読有)

②図書

中野正昭, 日本近代演劇史研究会、社会評論社, ドラマトゥルギーを超えた物語を求めて, 『リング・リング・リング 女子プロレス純情物語, 『つかこうへいの世界 消された〈知〉』, 2019/2, pp. 383-425

森平崇文, ミネルヴァ書房, 「第 13 章 現代中国案内」, 『教養の中国史』, 2018 年, pp. 305-328

③シンポジウム・公開講演会等の開催—「研究【経過・成果】の概要」欄で既述

④その他

学会発表

中野正昭, 「つかこうへい『リング・リング・リング 女子プロレス純情物語』について」、日本演劇学会分科会・日本近代演劇史研究会, 明治大学, 9/12

「2018 東亞大眾戲劇國際學術研討會 流行的生成與變動」, 台湾・台北芸術大学, 9/29-30

細井尚子「日本特有之興行制度—松竹所創造的「近代化」

中野正昭「從輕戲劇中看歐美娛樂之接收與變換--以榎健(榎本健一)的電影為中心--」

宮信明「從「日常」到「非日常」—寄席的「近代化」與技藝之變化」

森平崇文「御宅(OTAKU)芸的傳播—從秋葉原到上海」

輪島裕介(研究協力者)「演歌是「演的歌」嗎?近代日本之通俗音樂與上演文化的遺環」

森平崇文「民国时期上海的日本京剧迷」「东方与西方: 梅兰芳、斯坦尼与布莱希特国际学术研讨会」, 中国北京, 中国艺术研究院, 梅兰芳纪念馆, 2018/10/23

細井尚子「娛樂市場中之近代化與全球化——著眼於『大眾戲劇』」, 「想像與真實: 文化的隱喻、重塑及詮釋 2018 NTU 劇場國際學術研討會」, 台湾大学, 10/28

招待講演

細井尚子「台詞的音樂性與表演的身體性--『現代』影響下的日本演劇」, 「2019 新劇論壇 20 世紀台灣劇場的現代性想像與身體記憶」, 台湾・彰化縣政府、彰化縣文化局主催、國立清華大學台灣文學研究所等共催, 2019/3/30